

2014年9月8日発行

エコ・リサ通信

第 88 号

特定非営利活動法人

埼玉エコ・リサイクル連絡会広報

2014年8月21日エコ・リサ学習会報告 : 参加者 16名

地域の環境団体から学ぶ!! 第2弾

～市民が運営するリサイクルプラザ～

狭山市

＝エコ・リサ学習会を、埼玉のいろいろな地域で開催しようと、今回は狭山市奥富の環境センター内にある『リサイクルプラザ』におじゃましました。

工場棟とリサイクルプラザを見学した後に、NPO法人「さやま環境市民ネットワーク」の理事3氏に講師となっていただき、学習会を開催しました。＝



【家具を修理して市民へ】

NPO 法人さやま環境市民ネットワーク 副代表理事:毛塚宏氏

「さやま環境市民ネットワーク」(以下・さや環)は、平成15年12月に設立。平成19年8月にNPO法人化している。

さや環がその活動内容として掲げているのは

- 環境に係わる情報提供・情報交流
- 環境に係わる教育・普及啓発
- 環境活動に係わる市民・市民団体・事業者・行政の連携及び協働の推進
- 環境活動に関わる市民・市民団体・事業者への相談助言及び支援
- 環境に関わる調査研究・提言となっている。

①「情報提供・情報交流事業」について
広報誌「さやか」の発行、環境まちづくりについて語り合う「環境サロン」などの活動を行っている。今年になって初めて40団体に呼びかけて内27団体が参加

する交流会を開催した。今後は毎年開催を予定している。



②「教育普及啓発」について
自治会館の屋根を利用したソーラー発電所を2箇所建設した。現在3号機の建設を計画中だが、近隣の合意形成が得られずにいる。
今後は農地を利用した農業とのコラボレーションも検討している。

また公民館などにおいて「環境講座」を開催している。

③「連携及び協働の推進事業」

今回見学させていただいたリサイクルプラザの運営を行っている(後述)他にも
市内で開催される様々な環境保全活動への支援・参加協力、環境学習講座の企画運営、「緑のトラスト狭山」管理運営などを行っている。

今回の学習会におけるキーワードと言える「協働」に関して、毛塚氏はそのメリットを、さや環の使命である「環境まちづくり」推進の大きな原動力になる、市民の認知度の拡大につながる、また脆弱な事業基盤をPRや資金面で補完してくれる、と説明されていた。

しかしながらやはり「お金が無い」という課題も一方では語っておられた。「NPOだから安く済む、と思われがちだが決してそうではない。NPOであっても健全な運営が原動力になってゆく」という毛塚氏の言葉は非常に印象的だった。

NPO 法人さやま環境市民ネットワーク 理事 リサイクルプラザ担当：児玉靖氏

リサイクルプラザの誕生は平成21年1月。さや環はそれ以前の設立準備段階である平成19年から市資源循環推進課と協議を重ね、その設立に関わってきた。

しかしながら運営に関しては、市民啓発業務委託についての公募があり競争入札が行われ、他社との競合の結果としてさや環が受託した。

設立当初の平成21年には業務内容は
①ごみ減量・リサイクルに関する館内案内
②ごみ減量・リサイクルに関する学習機会の提供(リサイクル体験教室の開催)
③ごみ減量・リサイクルに関する情報収集及び提供(リサイクルプラザ通信の発行)
のみとなっていたが、平成22年度からは新たに
④再生品・不用品の展示及び頒布に関する業務
⑤不用品登録制度の斡旋に関する業務が追加されて受託業務範囲が拡大した。

リサイクルプラザの運営に関しては、「業務委託契約書」、「業務委託仕様書」、市の規則類

を当然順守しなければならないが、「それらを守るだけでもかなり大変なこと」と言う。

しかしさや環としてはそれらを順守するだけでなく、リサイクルプラザをより充実した施設に、より市民に親しまれる施設にする為の、市への提言を

「運営の基本」に据えている。その提言の内容が事例として多数紹介された。

その中でも多いのは、「着物フェア実施方法の改善」や「再生家具の申し込み方法改善」等現場で直面した課題から生まれたものだった。

現場での課題の例として挙げられていた一つに、不用品登録制度に関するエピソードがあった。これは市民が不用品として「登録カード」に書いた内容をもとにそれを必要とする市民とをつなぐ業務。運営側はその物を見ることなく、カードに書かれた内容だけで斡旋業務を行い、基本的には両者間でのやり取りで成立するはずの制度であるが、やはりトラブルが多く、実際にはリサイクルプラザ運営を行っているさや環が間に入ってケアをするケースが多い、とのこと。



税理士法人 T&M ソリューション

毎月第2水曜日は「税の無料相談日」お気軽にお問い合わせください！

お問合せ ☎03-5829-9664 E-mail info@tms.or.jp

ちょっと聞いただけでも、現場で対応する方々のご苦
労が大変なものであろうことが想像される。

NPO さやま環境市民ネットワーク リサイクルプラザ体験教室 企画担当:遠藤日出子氏



リサイクルプラザ体
験教室は「無いな
いづくしからのスタ
ート」と遠藤さん。
市にとっても NPO
への業務委託は
初の試みであり、
お互いに分からな

い中で始まった。

市から「計画書を作ってくれ」と言われて遠藤さんがお
作りになった計画書を資料として見せていただいた。
「石けんづくり」、「さき織教室」、「紙すき教室」などな
ど。

2009年2月に立てた計画で61回開催、去年は74回
開催したそう。

最初は道具も何も無い、時には材料まで自前で持ち込
んで行った。

体験談の数々を語って下さりましたが、ご苦労が伺える
エピソードが多い中でも、「楽しい」という言葉も。

印象的だったのは「何も無かったから良かったのかも知
れない。『あれをやれこれをやれ』と言われていたら面
白くなかったかも知れない」という遠藤さんの言葉。

先駆者の苦しみと喜びが伝わってきた。

「協働」という言葉は良く使われて、理想的に聞こえるか
も知れないが、言うのは簡単だけれど、、、、という遠
藤さん。



「私たちが思うことと、行政が思うことはずいぶん違う」と
も。

まとめ

遠藤さんの語られるとおり、今回のキーワードと言える
行政と市民の「協働」。

非常に聞こえもよく、まさに理想的なイメージを抱かせ
る。

しかしながら、その理想を追い求めることは決して簡単
ではないんだ、というメッセージが、講師三名の言葉に
は込められていたように感じる。

もう一つ、共通して言われていた課題に若い世代の参
加、があった。

遠藤さんは「5年・10年先が心配」と語り、毛塚さんは
「若い世代及び女性の参加」を
資料内でも課題として挙げている。

現在は機関誌とホームページで情報を発信している
が、これは「最低限である」と認められており、フェイスブ
ック等を用いた多様な情報発信方法が課題と捉えてい
る。

創業
昭和3年 **珍来**

www.chinrai.co.jp

TOWNNAVI
埼玉

街を遊ぶ！食べる！極める！ www.townnavi.info/saitama

質疑応答 (たくさんの質疑から抜粋)

講座の内容は大変充実していて、参加人数が少なかったのがもったいなかったほど。質疑も活発にされました。エコ・リサの今後の活動にも参考になりました。

Q：売り上げは市へ入るのですか？

A：はい。

Q：取り扱い数の推移は？

A：年27,000人で、かわっていません。

持ち込みと、購入希望のバランスがとれている。1日7~8,000円の売り上げです。

Q：協働だが、市からの注文は？

A：5つの協働事業を行っている。行政とともにつくったNPOで、運営費ではなく事業に対して費用が出る。特に注文はない。(書式には厳しいですが・・・)

Q：利用者のニーズの調査はしていますか？

A：アンケートはとっていないが、感想文をとっているが未整理で、今後整理したい。講座は参加者10人に講師2人なので、意見は聞こえてくる。

Q：とりあえずの年間計画の中身は変わりましたか？

A：一年目がベースになっている。最初に大変人気のあった『マイバックづくり』は、今は落ち着いている。人気は変わっていく。

Q：プラザ利用は、狭山市民・在勤・在学者のみだが、変えないのですか？

A：行政との協働で、2009年2月の開所時に決定しているので、すぐに変えるのは難しい。

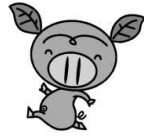
しかし、きものフェアの値段が変わった例もあるので、必要に応じて変えていけたらと思う。

※ 子どもの体験講座には、毎回100人以上が参加。スタッフ15人の全身体制で対応。広報は、まめに広くと工夫している。プラザへの交通が不便なので、出前講座も行っている。

※ 悩みは、常習者の万引き対策と、毎日10点(上限)購入して転売している人が10人ほどいること。対応に苦慮している。



ゴトグループ
快適な環境づくりのお手伝い。
村岡営業本部 ☎048-537-0555
ゴトグループ <http://www.510goto.co.jp>



食品リサイクル買取	検索
蛍光灯リサイクル埼玉	検索
廃棄物買取 ダンボール	検索

産業廃棄物
認定制度

産業廃棄物のことなら何でもご相談下さい。
ウム・ヴェルト株式会社 ☎0280-23-2641



TeRA 一般社団法人 **繊維リサイクル協会**
<http://tera-jpn.or.jp/index.html>

司法書士竹内啓修事務所
お問合せ ☎048-963-6055 不動産・商業登記全般

～化学物質の子どもの脳への影響～

2014年6月5日(木)に黒田洋一郎さん(環境脳神経科学情報センター代表)の講演を聴きました。とても広い内容なので、すべてはお伝えできませんので、その要点のみを記します。

ネオニコチノイド系農薬(以下ネオニコ農薬)によるミツバチの行動異常と大量死

1990年に世界的なミツバチの大量死が起こり、社会問題になった。タバコのニコチンに似ている化学構造のネオニコ農薬が強い神経毒性を示すことが判り、ミツバチの帰巢能力や女王蜂の養育行動が出来なくなったことが原因とされている。

なお、有機リン系農薬も神経毒性が知られているが、ネオニコ農薬はさらに強力で、ミツバチ以外にも野生動物種や昆虫、鳥なども影響を受けている疑いがある。佐渡のトキ保護区ではネオニコ農薬を使わなくなったら繁殖がうまくいくようになった。また、星信彦(神戸大学大学院)らはネオニコ農薬がウズラの生殖を阻害することを報告している。

欧州食品安全機関はネオニコ農薬がヒトの発達神経毒性の可能性ありとし、規制強化の必要性を公表

ニコチンがヒトへの毒性、健康障害・発達障害を起こす、と言う論文は山のように出ているが、新しい農薬に対する研究論文は少ない。ネオニコ農薬について日本では青山美子、平山美子らの論文があるがあまり広まらなかった。欧州食品安全機関はネオニコ農薬2種がヒトの発達中の脳神経系や学習・記憶などの脳の構造に影響がある可能性のあることを見出し、許容暴露量を下げべき、と結論付けた。

日本の食品安全規制では、ネオニコ農薬のADI(一日摂取許容量)はEUや米国と同じであるが、なぜか食品中残留基準は極端に緩く、種類によっては数十倍、数百倍緩いものがある。さらに昨年末ネオニコ農薬クロチアニジンの残留基準をあらうことか現行より緩める改定案が出されている。

ネオニコ農薬によるミツバチ脳・ヒト脳での発達障害

ネオニコ農薬の2種類について述べたが、他の類似の種類のものも多かれ少なかれ発達神経毒性があると結論付けられると思われる。これらをもっと詳しく研究するためにコンピューターで自動化された「行動実験学」やスクリーニング法を開発することは重要である。

近年、日米欧で自閉症・ADHD(注意欠如多動性障害)などの発達障害や「切れやすい」「引きこもる」と言った子どもの異常行動が増加している(カリフォルニアの調査によると、0～4歳児の自閉症になる割合は1990年を1とした時に2006年では11倍に、5～9歳児では4倍に増えている)が、その原因が環境因子、ことに発達神経毒性を持った環境化学物質とする証拠が多く集まってきた。神経伝達物質アセチルコリンの働きを間接的に攪乱する有機リン系農薬を浴びた母親からは、ADHDやIQ低下などの知的障害のある子どもが多く生まれた、と言う論文は2010年の論文誌に発表されている。

日本ではタバコのニコチンが胎児の低体重やADHD児が生まれるリスクが高いことはよく知られていて、室内での喫煙は多く規制されるようになったが、ニコチンよりさらに毒性の強いネオニコ農薬の規制は早急に欧州と同様に進めるべきであろう。

日本の農業も近年無農薬・有機栽培の技術が普及され付加価値を付けて高く売る方向に徐々に転換する動きが始まっている。野菜・果実なども十分可能で、多くの人々がさまざまに工夫しており、未来は明るい。日本農業は有史以来数千年、無農薬、有機栽培でやってきたのだから、もともと無農薬の方が本命である。

行政レベルでも食品が国際的に大量に流通して問題が生じている現在、欧米の基準より安全性の低



読売旅行

読売旅行「あなたの街から」いい旅 いつも これからも

さいたま営業所 ☎048-640-4343

FAX 048-644-7674

い「日本独自」の緩い農薬規制はこのままでよいはずはない。

問題は農薬会社の企業倫理と真の合理性である。自社製品が原因で子供の一生に係る健康被害が起こること、莫大な賠償金の支払いを裁判所が命じることの多い米国では、新しい情報があり、化学後記

日本ではいまだに人の命よりも企業の儲けの方が大事、「直ちに影響はありません(将来のことは知らないよ)」と言う農水省や厚労省などの政治的な動きが止まらないのと、農薬などを避ける賢い消費者もいる一方、「安ければよい」とする無頓着な大部分の消費者により農薬散布が支えられていると思われ、この報告が少しでも消費者の啓発に役立つことを願っています。 土淵 昭 記

工業会の毒性工学コンサルタントと思われる研究者の論文が出ている。

「日本でも危険な殺虫剤や農薬がばらまかれていたものだ。」と昔話になる日になるべく早く来ることを祈りたい。

～♪いろんな名前が出て～いまあすう♪♪～

わ～～ッ?!
使ったことある!



妊婦、乳幼児、子供の周辺での使用は避けましょう!!

薬品名	商 品 名
アセタミプリド	モスピラン、マツグリーン、カダン、イールダー-SG モストップジンRスプレー、モスピラントップジンMスプレー、カダン殺虫肥料錠剤
イミダクロプリド	アドマイヤー、ハチクサン、アースガーデン、メリット アドバンテージプラス猫用、アドバンテージプラス犬用、アドマイヤーフロアブル
ニテンピラム	ベストガード、ペダンベスト、ベストガード粒剤、ウオンテッド、 プログラム錠犬用、ペダンベスト粒剤など
クロチアニジン	ダントツ、フルウイング、モリエート、ハスラー、タケロック ベニカ×ファインスプレー、ベニカケムシエアゾール、ダントツ粒剤、 ダントツ水溶剤
ジノテフラン	スタークル、アルバリン、ボンフラン コバエとり、コバエがホイホイ、アルバリン粒剤、スタークル粒剤
チアクロプリド	ウィンバリアード、エコワンフロアブル バリアード顆粒、キラップバリアードフロアブル
チアメトキサム	アクタラ、クルーザ FS30、アクタラ 5、アクタラ顆粒水和剤

埼玉県環境部資源循環推進課コーナー

食品リサイクル法の見直しについて

国では平成 25 年からリサイクル各法（食品リサイクル法、家電リサイクル法、容器包装リサイクル法）の見直し作業を進めています。今回はこの中で最も作業が進んでいる食品リサイクル法の見直し状況について説明します。

1. 見直しの経過

食品リサイクル法は平成 19 年の一部改正から 5 年が経過し見直しの時期が到来したことから、中央環境審議会と食料・農業・農村政策審議会の各委員会の合同部会において平成 25 年 3 月に見直し作業が始まりました。関係者のヒアリングや今後の方向性の議論など、今年 6 月までに 11 回の会合が重ねられました。これらの議論の結果を「今後の食品リサイクル制度のあり方について（案）」としてまとめ、7 月にパブリックコメントが実施されました。

2. 現状と課題

食品リサイクル法の施行以来、食品廃棄物の発生量は年々減少し、再生利用等実施率は上昇傾向にあります。特に食品廃棄物等の発生量が年間 100 トン以上の食品関連事業者の再生利用等実施率は、食品製造業及び食品小売業で目標を達成しています。また、登録再生利用事業者数やリサイクルループの認定件数も順調に増加しており、とりわけ川上ではリサイクルが着実に進んでいると言えます。

一方で、外食産業や家庭などいわゆる川下ではリサイクルが進んでいません。日本では年間 500 万～800 万トンもの食品ロスが発生していますが、これらの多くが焼却処分されています。食品ロスの発生抑制や川下におけるリサイクル率の向上が大きな課題となっています。

3. 解決の方向性

まず重要なのは発生抑制です。食品リサイクル法では暫定的な業種別目標値が平成 24 年に設定されました。今年は本格展開を行うため業種を追加するなどして 75 業種中 26 業種に目標が設定されました。残り 49 業種のうち 25 業種についてはデータが整った段階で目標値が設定されます。残りの 24 業種についても今後量的な把握を進め、対策を検討していく方針です。

また、現在すでに官民をあげた食品ロス削減の取組として、関係省庁、地方自治体、関係団体、消費者等が連携してフードチェーン全体で食品ロス削減国民運動が展開されています。今後は食品ロスの経済的価値やその削減による環境負荷低減効果を試算するなど、取組の効果が国民にもわかりやすいよう「見える化」することで、より一層の推進を図っていく方針です。

そのカギとなりそうなのが、食品廃棄物等の発生量が年間 100 トン以上の食品関連事業者が行う定期報告の改善です。繁雑になり過ぎないように報告内容の合理化を図った上で、都道府県別のデータを報告させることとなります。地域ごとの発生状況や再生利用状況が把握できることで、自治体と食品関係事業者、登録再生利用事業者などが必要な情報を共有しながら対策を講じることができ、更に、これまでかなりアバウトだった発生量の精度が高くなることで、目標設定や効果測定が容易になります。

最後に、食品廃棄物の発生抑制・再生利用は循環型社会の形成推進だけでなく、地域活性化やバイオマスの利活用、環境教育・食育の推進など、多様な政策目的の達成につながります。そこで、関係主体間の連携を強化し、関連する施策を一体的に推進し、相乗効果を求めることが重要としています。食育を柱として総合的な対策として推進することが効果的です



エコリサの環境出前講座のご案内

エコ・リサでは講座や学習会の企画から講師派遣までをトータルで提案しています。子どもから大人まで関心度別に選べます。複数のテーマを組み合わせることも可能です。詳しくは、下記ホームページをご覧ください。

環境出前講座案内・講師紹介 <http://www.townnavi.info/eco-risa/con02/kouza.html>

エコ・リサ研修見学会のお知らせ

研修見学会実施期日：平成26年10月2日（木）雨天決行 定員30名

参加費：1名 会員2,500円、非会員3,000円（バス代・保険料等）

*昼食代別、大田市場にて自由昼食となります。

申込み締め切り9月26日〔金〕（但し、定員になり次第、締め切りとさせていただきます。）

今年は、※東京都のスーパーエコタウン事業に選定されている食品廃棄物のリサイクル先進企業2社を見学いたします。



1社目は、食品廃棄物（スーパーやレストランなどの調理残さ、食べ残し、売れ残りなどの事業系一般廃棄物、並びに食品工場などからの食品残さなどの産業廃棄物）を乾燥し、養鶏・養豚用の配合飼料の原料を製造している(株)アルファ様です。

2社目は、食品廃棄物をメタン発酵させ、取り出したメタンガスを燃料にして発電・売電するとともに、メタンガスを都市ガスとして供給することも始めたバイオエナジー(株)様です。両社とも、食品廃棄物が大量に発生する都市という条件を活かして、食品リサイクル法や電気事業法にも対応した取り組みをしています。

行程表

集合場所 大宮駅西口シーノ大宮前 7:50集合 8:00出発(時間厳守)＝首都高速＝大田区城南島＝(株)アルファ様見学(10:00～11:45)＝大田市場見学・昼食(12:00～13:45)＝バイオエナジー(株)様見学(14:00～16:00)＝首都高速＝大宮駅西口シーノ大宮前17:00頃解散 (行程の時刻は変更になる場合があります。)

※エコ・リサ会員の方にエコ・リサ通信の今後の配信方法についてのごお願い※

事務作業、省コストの点からmail配信への移行をすすめております。

メール配信希望の方はホームページお問い合わせから「エコ・リサ通信mail配信希望」として氏名・アドレスの連絡をお願いします。

編集後記：エコ・リサ学習会では、行政と協働する環境・まちづくりに関するNPO法人にとって参考になるお話をたくさん聞けました。全文はホームページをご覧ください。研修見学会も、話題のバイオガス発電の現状を知る貴重な機会です。大田市場での昼食も楽しみですネ！ぜひご参加ください。 轟 涼